



環境サロンが始まりました!!

環境サロンは、身近な環境問題などをテーマに、みんなで気軽に学びあえる場、語りあえる場です。一度だけのご参加も歓迎です。

参加費…各回 200 円
問合せ…39-8110 (銀天エコプラザ)

テーマ〈世代間の対話〉

今日の複雑な環境問題を考えるとき、やはり根本的な私たちの生き方や価値観そのものを考えなければならない時代になっています。生きる力をもつ子どもたちが育つように、ともに考えたいと思います。

7/18(木) 18:30~

「子ども達や若者達と関わってきて」

(中村彰臣)

中村さんは幼稚園や老人ホームの経営のかたわら、スタジオザンクロや満天堂のリーダーとして多くの若者達と関わりを持ち、福島の子供達を見島に招待する活動も続けておられます。様々な角度から貴重なお話を伺い、話し合います。

テーマ〈まちづくりa：市街地活性化〉

宇部市の市街地は昔の盛況が想像できないほど閑散とした状況です。再活性化の課題と対策について、ハード・ソフトの両面から、知恵を集めて考えます。

7/11(木) 19:00~

「まちづくりを目指す諸団体の活動について」

(宇部未来会議 藤重雅明)

国内地方都市において、中心市街地は衰退が進んでいます。宇部市においても同様です。環境サロンでは、市民(若者・市民)による“まちづくり”を企画・実行している諸団体(宇部未来会議等)の活動状況をご紹介します。参加者の皆様と活発な対話を展開したいと考えております。

テーマ〈里山再生〉

今年度、宇部市においては、里山保全に関連して、生物多様性応援団が発足します。この動きに呼応して、市民が里山の重要性を認識し、草刈りや休耕田の利用など、小野地区を中心に中山間地域の農林業を支援する活動を目指します。

7/25(木) 18:30~

「小野湖の水を守る活動と里山の保全」

(うべ環境コミュニティー 津島 榮)

私たちが、生きていくために欠かすことのできない水が汚染され続けています。小野湖の水も同様、基準(目標)が守れない状況にあります。生物多様性を保全するためにも、水質の保全は重要な要素です。小野湖の水が、何故汚染され続けるのか、みんなで考えたいと思います。

テーマ〈まちづくりb：市民共同発電〉

太陽光発電を中心に、再生可能エネルギーの背景を含めて、市民が出資できる共同発電事業の可能性について話し合い、事業化の検討を行います。

7/23(火) 18:30~ ところ：ヒストリア宇部

「再生可能エネルギーについて学ぼう」

(山口大学大学院教授 福代和宏)

福代さんは大阪大学で環境工学の学位取得後、日立製作所を経て山口大学に赴任され、現在、技術経営研究科教授で山口県再生可能エネルギー推進指針策定委員会会長。初回ですので再生可能エネルギーの基礎的なことを学びたいと思います。

環境歳時記

7月10日「セブソ事件」



裏面をご覧ください

初めての方も、ご見学の方もお気軽に来館ください

宇部市まちなか環境学習館「銀天エコプラザ」には、環境関連図書もある学習室(無料)、使いやすい料金のミーティングルーム(大・小)があります。

午前9時から午後9時まで利用できます。

ご利用、ご見学をお待ちしております。まずは1階事務所へお声かけください。

宇部市環境学習ポータルサイト

「うべっくる」



うべっくる

検索

<http://www.ube>

宇部市のいろいろな環境学習拠点の紹介、環境関連のイベントのお知らせなど、随時更新しています。

「銀天エコプラザ」の詳しい紹介もあります。

※ まちなか環境学習館や環境に関することについて、ご意見・ご質問等、お気軽にお寄せください。

ポータルサイト内のブログ、フェイスブックのコメント欄もご利用ください。

西岐波いその会

白砂青松と云われていた白土海岸が松喰虫の害で松は減少し、打ち寄せるごみは増えるばかり。元の美しい海岸にしたいと、数年もつづけて毎朝、海岸の掃除をされていた当時の白土自治会長に計かり、ボランティアひまわりの会や、婦人会、地域の有志で平成2年に「いその会」を結成（現在会員20名）、毎月、第1月曜日を海岸清掃の日とし、「一日一善住みよい環境」をスローガンに会をすすめています。

作業は、白土海水浴場周辺、白土、吉田海岸の漂着ゴミ、流木、缶、瓶等を収集し、分別してゴミセンターに出しています。

作業が終わったあと、砂浜でお茶タイム、話し合いを楽しんでいます。

ときに、わざわざ海岸の清掃に来られるグループもあってありがたいと思っています。

会のかかげたボランティアの灯を消さないようつづきたい。さらに防災、自然保護につながることを願っています。



終わったあとのお茶タイム

問合せ 宇部市西岐波 1036
西岐波いその会 中村閑策
TEL 0836-51-9815

環境歳時記

7月10日 「セベソ事件」

セベソ？と言われて今現在ピンと来る方は少ないかもしれない。セベソはイタリア北部、ミラノの北約25kmに位置する人口約2万人の小さな町の名前だ。

しかしその町の名前は1976年7月10日突然、全世界に広まった。

そのセベソの北側に接する町メダにある化学工場、イクメサ工場では以前から除草剤や枯葉剤の原料である化学薬品や殺菌剤を製造していた。そしてこの日の正午すぎ、工場の反応炉が大爆発をして白い噴煙と共に大量の化学薬品を大気中に放出してしまった。原因は運転指示書を無視した作業員の人為的なミスにより反応が熱暴走したためであった。

その化学薬品の中には猛毒のダイオキシン類(2,3,7,8-TCDD)が含まれていた。その量は30kg~40kgと言われている。そしてそのダイオキシン類を含む噴煙はおりしも吹いていた北北西の風に乗って、工場から南に当たるセベソの町に濃度の高い降下物を降らせた。それらは真夏の昼間に雪の様に町に降り注いでいった。高濃度に汚染された地域は1,800haに広がり、その後長く影響を受け続けた。その降下物の有害性を市民が知ったのは事故

から10日後、そして避難命令が出たのは事故発生後14日経ってであった。影響は徐々に広がった。

まず初めにその被害を受けたのは草木、小動物、そして家畜類と広がってきた。

白い粉が降り注いだ草木は枯れ、飛んでいた小鳥が地上に落下、苦しみながら死んでいった。そして鶏、犬と広がり、牛や馬などの家畜へと広がってきた。事故後の数日中に、家禽やウサギなど約3,300羽の動物が死んだ。

それとともに住民への被害も出てきた。まずは目や頭の痛み嘔吐、そして皮膚には赤い発疹が現れ始めた。事故による直接の死者はいなかったものの、その後癌、慢性皮膚炎、神経障害、奇形児発生等の被害者が22万人以上と推定され、家畜も被害が他地域に広がることを恐れて8万頭以上が屠殺処分された。

翌年の4~6月のセベソの町における妊婦の流産率は34%と、明らかにこの事件の深刻さを物語っている。

汚染された土壌は剥ぎ取られて、大きな穴に入れられてシートで覆い、新たな汚染されていない土で覆われた。

濃厚に汚染されたAゾーンという地域

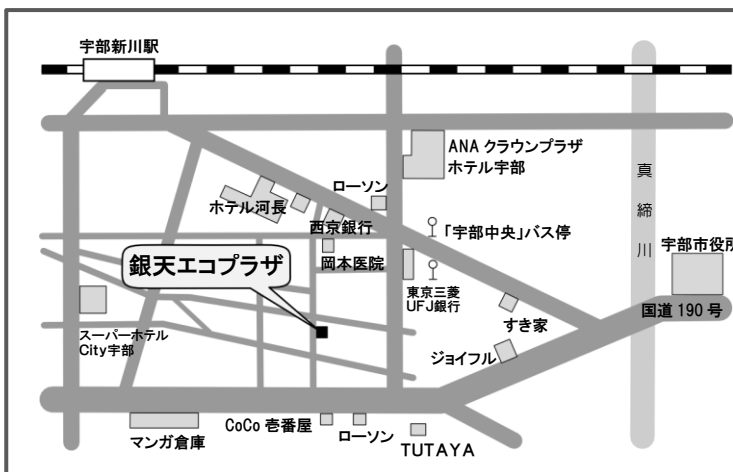
はいまでもって高いフェンスで囲まれ、立ち入りが禁止されている。

この事故後、EUは1982年、危険物質を伴う大規模災害を予防し、災害が発生した際の人間や環境への危害を最小限にすることを目的としたセベソ指令(一定の産業活動に伴う重大事故の危険性に関するEU指令)を発令し、その後2度の改正を経て現在に至っている。

また事故後、周辺の土壌や除染作業による防護服、プラント内部に残留していた化学物質などはドラム缶詰めにして工場内に保管されていたが、1982年9月に行方不明となり、翌年5月にフランスで発見されるという事件が起った。こうした事件を踏まえて一定の廃棄物の国境を越える移動等の規制について国際的な枠組み及び手続等を規定した条約が1989年3月、スイスのバーゼルにおいて採択され、日本は1993年に加盟している。

しかし、先進国から有害物を含んだ廃棄物が不法に輸出され、その廃棄物を取り扱う作業環境悪化など多くの問題を残している。

(館長 西村 誠)



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時~21時

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)